

【歌詞】

へ思ふ心のあればこそ　あとのあどのあどの太夫殿の　お顔の色が穂に出でた　穂に穂重ね
て目出度うこそは候　翁かえし　今日の御祝儀を舞うておりそえ　寒梅の白きは翁翁草菊の
葉守の神ありて　霜にも負けぬ花なれや　花と名指すは桜と言えど　冬の花には何々ぞ　水
仙山茶花枇杷の花　春待ちかねて驚の　三番叟　片言ながらこの尉が　押さええた押さええたこ
の箱を　外へはやらじと遣り水の　音もとうたり絶えずとうたり　絶えずに来るのが誠の心
こつちに如才はなけれども　そつちの心に一物がありそうな　口舌するのも野暮らしい　聞
かずに目出度う元の座へ　お直り候へ　ああら様がましやこなたこそ　千秋万歳々歳と　謡
い囃して舞にけり